

新型コロナウイルス感染症から身を守るために
看護学部から学生への応援メッセージ NO5

すでに授業や実習を終えて夏休みに入っておられる学生さん、前期の試験終盤にある学生の皆さんへ

夏休み期間を迎え、思いきり楽しみ良い時間を過ごしてくださいとお伝えしたいところですが、新型コロナウイルス感染症の急激な拡大を受け、8月6日には愛知県知事からの緊急事態宣言が発出され、県をまたぐ移動の自粛要請がありました。“Summer with コロナ”を無事に超えて、後学期に元気な姿を見せていただくために、看護学部から学生の皆さんにメッセージを送らせていただきます。

後学期も感染症拡大の動向にあわせ、オンラインでの学習と対面での学習のハイブリッド型で、講義・演習・実習を計画しています。今後も、大学は精一杯の感染予防を行い、学生の皆さんが安心して学習できる安全な環境づくりをしていきます。しかしながら、大学が提供できる安全な環境づくりには、学生の皆さんの意識づけや協力がなければ実現いたしません。夏休み期間も、ぜひ、以下の行動を継続して守って過ごしてください。

看護学部長

皆さんに重く受けとめてほしいこと—専門職を目指す学生として想像力を働かせよう

新型コロナウイルス感染症の急激な拡大により、愛知県内の医療機関も患者さんの受け入れ病床数の確保や、軽症者用の療養施設の調整に懸命に努力されています。自宅待機となっている感染者の方も大勢おられます。新型コロナウイルス感染症の患者さんへの対応に伴い、他の疾患の患者さんの受け入れが困難となることもあります。

救える命が救えなくなる、これこそが医療崩壊です。皆さんは、将来、看護専門職者になる特別な存在です。専門職を目指す学生として、この先に生じることを想像し、**ご自分の行動を自らコントロールしなければいけないことを肝に銘じてください。**

1. 大学からの連絡事項の確認

夏休み期間であっても、守るべきことは同じです。愛知医科大学では学生の皆さんや教職員の活動基準を定め、ホームページ上に掲載しています。この活動基準は毎週、大学全体の新型コロナウイルス感染症対策会議を経て決定し、状況にあわせて変更していますので、必ず確認してください。

また、今後の感染拡大状況によっては、再試験の日程・方法の変更や後期のガイダンス・授業についての重要なお知らせをする場合がありますので、**必ず1日1回は学内メールを確**

認してください。

2. 日常生活で引き続き守ってほしいこと

(1) 「体調管理確認シートへの記入」と自身の健康管理をしっかり行うこと

夏休み期間も毎日検温し、体調管理シートに毎日入力してください。大学の職員が毎日入力結果を確認しています。夏休み期間は生活リズムが変化しやすいですが、この体調管理シートで自身を管理することは、皆さんがご家族や友人と過ごされるときにも有効で、周りの方たちの命を守ることに繋がります。体調が少しでも悪い時は、外出を控え、自宅で家族とも可能な範囲でフィジカル・ディスタンスを保って過ごしてください。

頻繁に**確実な手洗い、手指消毒の習慣**を続けてください。無症状の感染者が増えていることから、常に「**自分も感染しているかもしれない**」という意識をもって行動してください。

引き続き**マスクの着用**を行い、飛沫を飛ばさないように心掛けてください。暑い夏、マスクが苦痛になることもありますが、皆さんの大事な家族や友人を守るためです。友人同士の、マスクなしでの至近距離での会話は避けてください。

(2) 感染リスクが高い場所・状況を判断し、避ける行動をすること

新型コロナウイルス感染症のリスクが高い場所・状況が明らかになってきています。看護学を学ぶ皆さんは、密閉・密集・密接の三密となる場所・状況を判断できるはずですが、換気の悪い場所や、大勢の不特定多数の人が集まる場所や、会食などマスクをはずす場面などは十分に注意し、避ける行動をしてください。「この場所・状況はリスクが高いかもしれない」と感じたときは、躊躇せずにそこから離れてください。一緒に会食をする方の健康状況もお互いのために見極め、参加しないという判断も時には必要かと思えます。

3. ご家族や友人と一緒に守ってほしいこと

愛知県では8月6日から8月24日まで県をまたぐ移動の自粛要請が出されました。他の地域でも移動に係る自粛要請が出されています。この間に実家への帰省や、旅行を予定された方もおられると思いますが、可能な限り計画の延期を検討してください。

必要があり移動される場合は、その前後の健康状況を10日間程度確認し、不安な症状がある場合は移動をしないでください。ご家族と車を使って移動される場合も、ご家族全員の健康状況を確認し、車の中の換気に十分に留意してください。皆さんには、**看護学部の学生の皆さんだからこそ、ご家族や友人に感染予防のアドバイスができる存在**になっていただきたいです。